

環境影響調査最終報告

『環境・エネルギー政策上 火発は問題あり』

九月十四日、中部電力㈱が建設を計画している石炭火力発電所問題について、環境への影響を調べてきた「石炭火力発電所建設問題専門家委員会」は、富士川町・蒲原町・由比町・芝川町で設置した「四町環境影響調査連絡協議会」に『石炭火力発電所は環境・エネルギー政策上、大きな問題がある。』と最終報告しました。これをうけて協議会は報告書の内容を十分検討し、今後の対応を決定していくということです。

国内最大級の

火力発電所

中部電力㈱が清水市三保地区に発電所立地を計画したのは昭和56年のLNG（液化天然ガス）火力発電所に始まります。これは住民の意向やエネルギー事情などによって中止となりましたが、平成元年将来の電力需要に備えるという事で再登場したのが石炭火力発電所の立地計画です。中部電力㈱では、①十年前の計画の際に購入した自社用地があること、②石炭がほかの燃料にくらべて供給が安定

③石炭の荷上げに必要な港を近くにひかえていること、④

海に隣接しているために工業用水の手立てがしやすいこと
⑤現在国内で二百万KWをこえる火力発電所は鹿島・横須賀・西名古屋・渥美・海南と、五箇所あります。

規模は百万KWの発電機二基を備え、年間の石炭使用量は四百五十万t、ボイラーの建屋の高さ九十m、煙突の高さ二百mと国内最大級の石炭火力発電所となります。

※現在国内で二百万KWをこえる火力発電所は鹿島・横須賀・西名古屋・渥美・海南と、五箇所あります。

石炭火力発電所の概要

■名称	清水火力発電所 1・2号機
■建設地	清水市三保字乾尻
■用地面積	中部電力㈱用地 約47万㎡ 県用地 約6万㎡ (譲り受け希望地)
■発電方式	汽力発電方式
■出力	100万キロワット×2台 =200万キロワット
■主原料	石炭年間約450万t(湿炭) (石炭は、外航船などにより運び入れる予定)
■用水量	工業用水 1日約1万トン 水 約50㎡
■冷却水量	海水を使用する。 45㎡/秒×2台=90㎡/秒
■営業運転開始予定	1号機 平成8年12月 2号機 平成9年12月

清水市は立地を受け入れ

を受け入れ

清水市は、平成元年二月に中部電力㈱からの口頭による立地に伴う環境問題の検討の申し入れをうけ、四月に専門家による「火力発電所評価調査委員会」を設置、平成二年六月に市職員による「火力発電所検討委員会」を設置し、調査検討をすすめました。平成二年十一月十日、清水市長は「火力調査委員会」と「火力発電所検討会」の報告にもとづき①電力需要の重要性、②経済効果、③環境問題

を十分検討したうえで問題は無いと判断し、立地を受け入れると市議会に表明しました。十二月十三日、市議会の公

害防災対策特別委員会は、これを受けて、それまで住民・市民団体から出され審議していた「建設促進」と「建設反対」の請願のうち、「建設促進」の請願を採択し、立地について市・議会とも受け入れる姿勢を示しました。

その後、住民・市民団体から再々「建設反対」の請願が出されていますが、全て不採択となっています。また、平成三年六月十日、

清水市三保地区の連合自治会は石炭火力発電所の建設について反対の決議をし、静岡県に要望書を提出しています。

四町は独自の

環境影響調査

平成二年九月十日、中部電力(株)から石炭火力発電所の建設について庵原三町に対して初めて説明がありました。

続いて十二月二日、清水市長が庵原三町を訪れ、それぞれの町長に清水市の検討結果の概要を説明し、立地を容認する基本的な考えを報告、また十二月十四日、中部電力(株)から富士川町の議会に対して公式な説明がありました。この席上、常葉町長は『環境への影響は専門家の意見を聞き、科学的なデータが必要。』と意見を述べました。

その後平成三年一月二十八日、大気汚染・温排水など周辺の市町村の環境へおよびず影響について独自の調査・研究をすすめていくということ

酸化物などの大気汚染物質の排出については、濃度は抑えられているが計画中の石炭火力発電所は既存の清水火力発電所とくらべ、硫黄酸化物は四・三倍と総量としてはかなり増大する。また、現状の静岡・富士地区におけるエネルギー使用量は県内の六十七％、硫黄酸化物の排出量三十六％、窒素酸化物の排出量六十一％、ばいじん排出量五十四％、石炭火力発電所が建設されることによりエネルギー使用量八十五％、硫黄酸化物排出量七十二％、窒素酸化物排出量七十％、ばいじん排出量六十％と、この地区に大きな負荷がかかることが予測される。

③中部電力(株)のアセスメントでは「煙突で拡散する」とあるが、富士川町・蒲原町はすでに二酸化窒素で常時汚染されている。これらの地区は現状では海側からの風向きのおかげには海風により汚染空気が希釈され濃度が低下する。大気が海上を流れ、富士川に平

で富士川町・蒲原町・由比町・芝川町により「四町環境影響調査連絡協議会」(会長・常葉雅文富士川町長)が設置されました。また、学識経験者による「石炭火力発電所建設問題専門家検討委員会」(委員長・中西準子東京大学助教)が組織され、大気汚染・気候・風向・風速・海の状態など、中部電力(株)がおこなったアセスメントデータを解析し環境にどのような影響をおよぼすかということについて、調査・検討を委託されました。

平成三年一月二十八日に富士川町議会、二月十二日に由比町・芝川町)の町長が清水市を訪れ、四町協議会からの質問に対し中部電力(株)から明確な回答がなされるまで、石炭火力発電所建設計画の推進について凍結するよう要望書を提出しました。

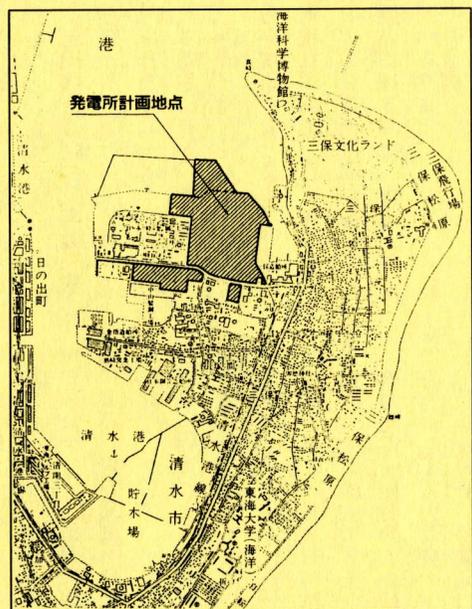
※平成三年二月二十七日、静岡市では「火力発電所環境影響調査専門委員会」を設置し、静岡市におよぼす影響を調査・

行して北上するというこの地域の気象条件を考えると、発電所の巨大化によって希釈空気が汚染される危険性がある。また、汚染物質の総量の規制については地球規模の問題としてとらえなければならぬ。④十年間で六百七十万ト排出される残灰の処分については、中部電力(株)は三分の一を興津川沖に埋め立てることを想定しているが、残灰が環境へおよびず影響、また灰の中に含まれる発ガン性物質ベリリウムについて検討されています。』と指摘しています。

『世界の宝庫』

駿河湾は？

水域におよぼす影響については『中部電力(株)の報告書は、技術的な説明が十分でなく漁業に対して安全・無害であるとはいえない。』というところで、中部電力(株)独自のアセスメントが必要であるとし、①温排水の影響により、駿河湾の生物が壊滅的打撃をうけ



発電所計画地点付近

検討してきましたが、去る九月十二日、調査専門委員会は「環境や人体にあたる影響はほとんどなし。」とする内容の報告書を静岡市長に提出しました。

環境への影響

あり！

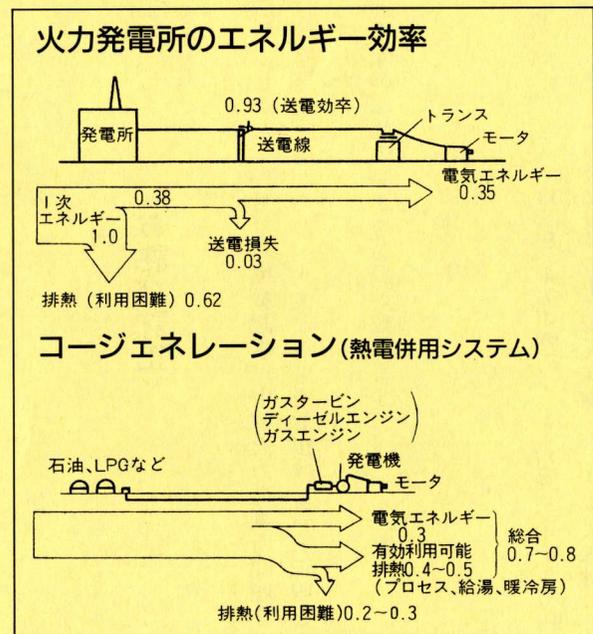
去る九月十四日、「四町環境影響調査連絡協議会」に、「石炭火力発電所建設問題専門家検討委員会」がこれまでの調査・検討結果を最終報告し、総論として『大気汚染などの

大気はどれだけ汚れるか？

エネルギー対策・大気への影響については『中部電力(株)

環境問題、エネルギー政策上の問題が多過ぎる。』として、『エネルギー効率がわるいように、窒素酸化物・硫黄酸化物・水銀・フッ素などの大気汚染物質を多く排出する巨大な石炭火力発電所を、現状でも大気汚染が著しい地区に建設することは疑問だ。』という見解を打ち出しました。

のアセスメントは現状の解析がなされておらず、慣れた手続きによる計算方式によるものであり問題がある。①昭和六十三年度の県内の工業全体で一年間に消費するエネルギー消費量は重油換算で三百十五万八千トであるのに対し、石炭火力発電所で使用する石炭を重油換算すると三百六十五万四千トと県内総量より多い。また、石炭火力発電は投入したエネルギーの三十五％しか利用できず、残りは温排水などで捨てられ有効に利用されないなど、非常にエネルギー効率がわるく、また、世界的にも二酸化炭素を抑えようという動きがある中、時代の流れに逆らっている。現在国内で電力の約七十％が工業用として消費されているが、工場や家庭で出る余熱を利用するコージェネレーション(熱電併用システム・エネルギー効率八十％)の採用などエネルギー問題については将来的見直しをもって対処する必要がある。②硫黄酸化物や窒素



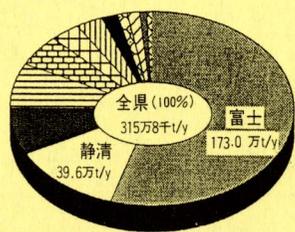
温排水拡散範囲予想図

報告書を十分 検討し対応を

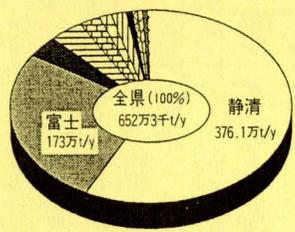
「石炭火力発電所建設問題
専門家検討委員会」の最終報
告をうけて、「四町環境影響調
査連絡協議会」の会長である
常葉町長は「これからは、自
然環境を守るといことが、
何よりも最優先する大きな課
題です。提出された報告書を
十分検討し、また、議会とも
十分協議したうえで、今後ど
のように対応していくかを決
定していきます。」とコメント
しています。

地区別燃料使用量(重油換算)

現況

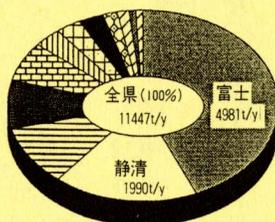


予測

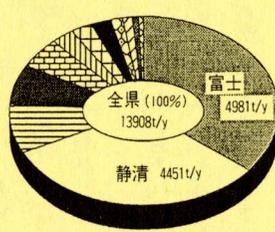


地区別窒素酸化物排出量

現況

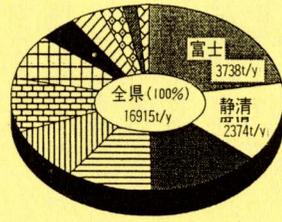


予測

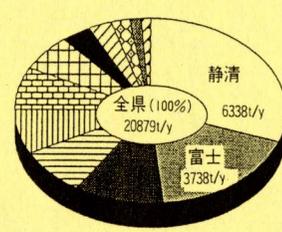


地区別硫黄酸化物排出量

現況

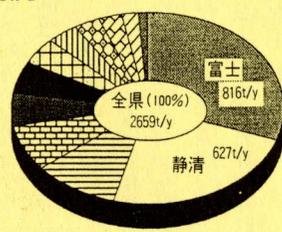


予測

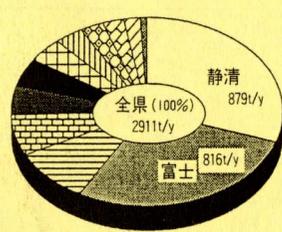


地区別ばいじん排出量

現況



予測



広報ふじかわ「10月号」掲載記事、中電火力発電所問題などに誤字・脱字等があり、大変ご迷惑をお掛けし、訂正版と致しました。
お手元の広報の訂正をお願い致します。

へお詫び訂正

誤り 正

9 Pの歳出で39億9、474億円 ↓ 39億9、474万円
 " 特別会計決算の中で老人保険 ↓ 老人保健
 11 Pの3段目12行目〜15行目

ります。現在、各地における集積場所の選定及び各世帯毎の処理届けを提出していただくようお願いいたします。
 13 Pの給食センターの ☎ 81-0716
 ↓ ☎ 81-0761
 14 Pの「敬老会」の田村なかさん
 110歳 ↓ 101歳
 今回たくさんの誤字があったこと深くお詫び申し上げます。